

氏名	香川 幸次郎
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3066号
学位授与の日付	平成8年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	パス解析モデルによる在宅脳血管障害患者のQOLの解析
論文審査委員	教授 青山 英康 教授 大本 堯史 教授 庄盛 敏廉

### 学位論文内容の要旨

在宅脳血管障害患者67名を対象に、主観的QOLの因子構造を、厚生省研究班（藤井潤班長平成4年度）が作成した質問項目を用いて検討した結果、満足感、心理的安定感、生活のハリ・活力の3因子が抽出された。これら3者のCronbachの $\alpha$ 係数は0.75以上であり、在宅脳血管障害患者の主観的QOLを三者に細分化して評価することの妥当性を得た。主観的QOLを構成する三者に対し、拡大ADL及びうつ状態の影響をパス解析を用いて検討した結果、満足感や心理的安定感は拡大ADLの影響をあまりうけておらず、うつ状態が満足感や心理的安定感を低下させていた。一方、生活のハリ・活力は拡大ADLとうつ状態の両者から影響を受けており、拡大ADLは生活のハリ・活力を高め、うつ状態は低下させることを明らかにした。

### 論文審査結果の要旨

在宅脳血管障害患者67名を対象に、厚生省研究班（藤井潤班長）が開発した調査表を用いて主観的QOLの因子分析を行い、満足感と心理的安定感、生活のハリ・活力の3因子を抽出することができた。さらに、パス解析を用いて満足感や心理的安定感、生活のハリ・活力に対する拡大ADLの関与を検討した結果、直接的な関与の程度とうつ状態を介する間接的な関与の程度を明らかにすることができた。

これらの結果から、在宅脳血管障害患者の主観的QOLに関与する要因の分析法としてパス解析を用いることの有用性を示唆する重要な知見を得たものとして、地域リハビリテーションの実践に価値ある公衆衛生学的業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。